

しあわせの村宿泊体験に参加して

K. T

今回初めてしあわせの村合宿に参加させていただきました。リハビリ病院を退院して2年、初めての宿泊となりました。宿泊前は体調を崩すのではないかと不安でした。結果としては、大きく体調を崩すこともなく過ごすことができました。四人部屋で宿泊しましたが、人によって快適な温度が異なり、空調を寒く感じてしまいました。ボランティアさんにたくさん浴衣や羽織、毛布を被せていただき対処しました。もう少し服を持っていけばと反省です。

バーベキューや交流会を通し、みなさんの仕事に対する情熱や社会に役に立ちたいという気持ちを感じることができ刺激されました。私はこれから子育てを通じて社会に貢献していきたいと考えました。また、一泊二日を無事に過ごせたという自信を持つことができました。これから、家族や友人とも宿泊できるのではと楽しみが増えました。しかし、車いすとベッドの間の乗り移りが一番の課題です。ボランティアさんの介助で乗り移りましたが、できれば自分の力で移りたいと感じました。これからリハビリで上達していきたいと思えます。

私のお手伝いをしていただいたボランティアの女性は大学2年生なのに、優しく、そばにいてくれるだけで安心感がありました。会話が途切れることなく、楽しく過ごせました。

最後になりましたが、連絡会の皆様、ボランティアの皆様大変お世話になり、ありがとうございました。楽しい思い出になりました。

宿泊体験に参加して

K. A

宿泊体験に参加したきっかけは、毎月送ってくれる頸損だよりのイベント情報をみて参加しようと思い参加しました。バーベキューでお肉をいっぱい食べられてうれしかったです。交流会でいろんな人と話せて勉強になりました。楽しかったです。

頸損の会の旅行を通して

K. I

私は、頸損の会の旅行を初めて、2人で参加させていただきましたが、たくさんの事を学べたと思います。妻のA以外でも、頸椎損傷を患っていて、温度調節ができない人はたくさんいるということ学びました。バーベキューの時には、美味しいお肉、野菜、シーフードを妻と食べられただけでなく、焼くというボランティア作業をさせてもらったり、何人かの頸損の会の会員の人達やヘルパーさん達と交わり、知り合いになることができました。夜の交流会では、何人かの人達と話して、ヘルパーさん以外で、ヘルパーさん並みの介護をしてくれる学生の人達の存在を知りました。実際、今回の頸損の会の旅行にも、神戸の大学の6人の学生の人達が来られていて、要介護者の人達の介護をされて。感心させられました。そういった学生さん達の助けも、今後、介護の世界では必要になっていくだろうと思いました。短い時だったけど、頸損の要介護者の人達や介護者の人達と話せて、とても楽しい時を過ごせました。また、このような頸損の会のイベントがあれば、参加していきたいと思いました。